

団体名	連絡先 TEL：098-889-4559
南風原町立津嘉山幼稚園	Eメール：

## 1 実践事項 (②)

「チームつかざん ～質の向上に向けて～」

## 2 実践内容

### (1) 幼児理解

園内研修や週案会議を通して幼児の実態を把握し、一人一人の育ちを共通理解している。また定期的に園内委員会を設け、個別の配慮が必要な幼児への援助方法を話し合っている。また各学級においてもクラス会議を設け、発達段階や保育の展開を職員間で共有する等、幼児理解に基づいた実践を行っている。



### (2) 公開保育・保育研究会実施

担任は一人、年に2回の園内公開保育を実施している。幼児の姿を踏まえながら、どのような環境構成や援助の工夫が行われているのかを視点到参観し、参観シートを活用した意見交換を行っている。また保育研究会を年2回実施し、保育者の反省や参観者の気付きから、よりよい援助の方法について探るなど保育の質の向上に努めている。今年度は副担任の公開保育を取り入れ、午前の保育と午後の預かり保育のつながりを意識した保育内容や援助の工夫について職員で共通理解を図った。



### (3) 幼児が主体的に遊ぶ環境づくりの実践

今年度は園の重点目標を「自ら考え意欲的に取り組む子」とし、様々な取組を行っている。幼児の発達段階や、今どのようなことを経験しているのか等幼児の実態を共通理解した後に担任と副担任で編成したグループが各遊びの環境構成を行い、保育を実践している(チーム保育)。担当の職員に継続的に見守られる中で、子供たちは何事にも意欲的に取り組む、試行錯誤する、最後まで粘り強く取り組むなど自立心の育ちが見られた。各環境での援助方法は園内環境図に書き込み、職員が閲覧できる場所に掲示した。それぞれの遊びの展開や教師の気付き等をその都度書き足し、口頭の情報交換と併せて共通理解ができるようにしている。



### (4) 共通理解と連携体制

定期的にクラス会議を設け、学級経営の方針や学級活動の取組について担任と副担任で話し合い、一貫した保育や援助が行えるようにしている。また保育中の生活の様子や遊びのエピソードを互いに共有することで、一人一人の実態や育ちを確認し、具体的な援助につなげている。支援を要する幼児には担任が作成した個別の指導計画を基に、特別支援教育支援員を加えた三者で話し合いを適宜設けている。



### 3 成果

- ・全職員で幼児理解を深める取組を行ったことで、様々な視点から幼児の姿を捉えることができ、個々の育ちや発達段階に応じた援助や環境構成を行うことができた。
- ・園内の公開保育や保育研究会を通して保育の方法について意見交換を行うことで、自身の保育の見直しや援助の手立てを考えることができ、質の向上につながった。
- ・副担任の公開保育を取り入れたことで午前の保育と午後の預かり保育のつながりを意識して保育に臨むことができ、幼児への言葉かけや援助に一貫性を持たせることができた。
- ・戸外の環境構成を3チームに分けて行った。それぞれのチームが保育を担当することで遊びに関わる幼児の育ちや学びの姿を継続して捉えやすくなり、その後の遊びの展開や環境の再構成など見通しをもった保育を実践することができた。
- ・クラス会議や環境チーム会議、支援会議など共通理解を図る体制を整えたことで、連携して保育に取り組む意識がより高まり、日々の情報共有や保育の手立てなどの意見交換がより活発に行われるようになった。

### 4 課題

- ・職員の保育経験年数に差がある。講師を招聘しての理論研修や保育力を高める実践形式の研修など研修内容の工夫・充実を図り、さらなる保育の質の向上に努める。
- ・全職員で同時に公開保育に参加することは難しい。フォトカンファレンスやビデオカンファレンスを積極的に取り入れ、保育の展開や幼児の姿を職員で共有し、より多角的な視点で幼児の実態把握や援助の方法、環境構成等について探っていく。
- ・日々の保育や行事などの中でそれぞれの会議の時間の確保が難しい時期もある。行事の精選や職員の勤務体制等を見直しながら、幼児理解や保育の質を高める為の会議時間の確保に努める。